

MIXI GROUPのサステナビリティ



MIXI GROUP'S SUSTAINABILITY

サステナビリティ基本方針

SUSTAINABILITY POLICY

私たちは、心もつなぐ
コミュニケーションサービスを
創造することで、
豊かな社会に貢献します。

私たちMIXIは、人々のコミュニケーションのクオリティを向上させ、生活がより豊かになる未来を思い描き、友人や家族といった親しい人や、同じ興味関心を持つ人々をつなげる様々なサービスを開発・提供してきました。

現在、ITの技術革新により様々な面で利便性が向上した一方で、一人ひとりに最適化された情報だけに囲まれる状況が広がっています。その結果、社会不安や孤立・分断といった社会課題が生じているとも言われています。このような時代だからこそ、本来のコミュニケーションの意義や役割が問われています。

私たちは、オンライン・オフラインに関わらず、コミュニケーションを通じて多くの人々の心をもつなぎ、感動や共感を生み出し、同じ時を楽しく過ごせる豊かな未来の実現を目指します。そのために、ITの側面から常にイノベーションを実現し、安心して楽しめるコミュニケーションの場と機会を創出し続け、健全なサービス運営を継続して行います。そして企業活動を通じて、ユーザーや地域社会など様々なステークホルダーと対話をしながら、持続可能で豊かな世界の実現に貢献していきます。

MIXIのマテリアリティ

MIXI'S MATERIALITY

8つのマテリアリティ（重要課題）

SDGs、Global Risk Report等各種評価項目を参照し、企業活動・ステークホルダーへのインパクトという視点から企業活動を通して実践するテーマとして、8つのマテリアリティを定めています。

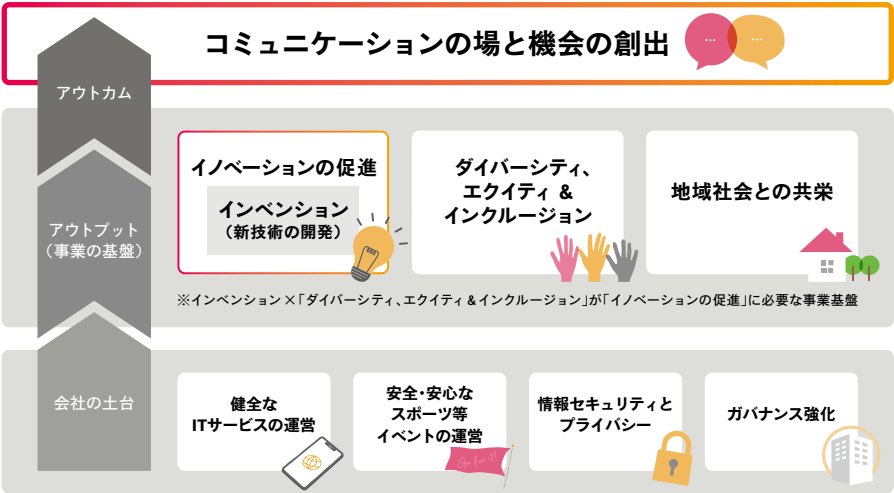
https://mixi.co.jp/sustainability/materiality_sdgs/

マテリアリティ	MIXIの取り組み	関連するSDGs
コミュニケーションの場と機会の創出	当社が創業以来大切にしてきたコミュニケーションのノウハウを生かして、孤立の解消などコミュニケーションサービスの提供を通じて様々な社会課題の解決に努めます。	  
イノベーションの促進	技術革新にとどまらず、事業を通じて「文化」を刷新するようなイノベティブな開発を推進します。	   
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン	当社は人材こそ最大の資本と考えています。各従業員が個性を発揮し活躍できるよう、誰もが働きやすい職場環境の整備、多様性のある人材登用、従業員の能力開発等に努めます。	     
地域社会との共栄	様々な企業活動及び社会貢献活動を通じ、地域の経済・教育・文化の活性化に貢献し、地域の皆さまとともに成長・発展に努めます。	   
健全なITサービスの運営	青少年の保護・配慮、サイバー犯罪、マネーロンダリングの抑止等、当社サービスをご利用いただく全てのみなさまに対し、責任あるサービス運営を行います。	    
安全・安心なスポーツ等イベントの運営	業界ガイドライン・コンプライアンス等を遵守し、テロ・暴力・犯罪等の対策を適切に行うことで、エンタメ・スポーツ等をはじめとし、安全・安心な運営に努めます。	 
情報セキュリティとプライバシー	多くのユーザーに長期に渡り安心してサービスをご利用いただけるよう、情報管理を適切に実施することでサイバー攻撃やデータ流出対策を行います。	  
ガバナンス強化	株主、顧客、従業員等のステークホルダーにとって信頼性・透明性の高い経営の実現に努めます。また、緊急時にも継続してサービスをご利用いただけるよう、BCP整備等の対策を講じます。	  

マテリアリティに関する考え方

マテリアリティを3つの区分で整理し、
マテリアリティごとに評価指標を設け、様々な活動を推進しています。

豊かなコミュニケーションを生み出し続ける企業として、「コミュニケーションの場と機会の創出」を当社のアウトカムと位置付けています。その実現のために「イノベーションの促進」を最も重要なアウトプットと認識し、「健全なITサービスの運営」等4つのマテリアリティを会社の土台として捉えています。より多くのコミュニケーションの場と機会の創出に向けて、各マテリアリティについて真摯に取り組み、経営基盤の強化・改善に努めます。



マテリアリティの評価指標と実績

当社はマテリアリティごとに評価指標を設定し、その実績および取り組みの進捗※を継続的にモニタリングしています。
また、サステナビリティ推進責任者を通して、3カ月に1回取締役会に報告しています。

マテリアリティ	評価指標と実績	
コミュニケーションの場と機会の創出	■ 評価指標 当社提供プロダクトの月間アクティブユーザー数(平均)および当社グループ運営試合・イベント等の来場者数合計	■ 2025年3月期実績 —※
イノベーションの促進	イノベーション ■ 評価指標 以下に該当するサービスの提供 ● 市場への影響(サービス提供により「文化」を刷新するような大きな影響) ● 顧客エンゲージメント(サービスを通じた圧倒的な顧客エンゲージメント構築)	■ 2025年3月期実績 1件(「mixi2」の開発・提供)
	インベンション ■ 評価指標 〈新技術の開発・導入〉 ● 新しい業務プロセスへの移行や基盤になる開発 ● 基盤開発における開発の取り組み ● 新しい技術プラットフォームの開発 ● プロダクト開発サイクルの短縮 ● 技術的課題の解決やブレークスルー ● ネットワーク効果における再現性のある施策の投入 〈知的財産〉 ● 特許出願数 ● 特許登録件数	■ 2025年3月期実績 〈新技術の開発・導入〉 27件 ● 「mixi2」に投稿された不適切画像の自動検出(新しい業務プロセスへの移行や基盤になる開発) ● minimoのレコメンデーション検証フローの最適化(プロダクト開発サイクルの短縮) ● 地方競馬向けAI予想オッズを独自開発(技術的課題の解決やブレークスルー)など 〈知的財産〉 ● 特許出願数 252件 ● 特許登録件数 244件

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン	■ 評価指標・2025年3月期実績(期末時点) 人的資本経営 (注)以下、MIXI単体の実績・目標値 ● 組織サーベイによるエンゲージメントスコア 75% (2026年3月期目標:75%以上) ● 女性管理職比率 16.8% (今後の目標:20%以上) ● 中途社員の管理職比率 90.9% ● 外国人管理職比率 1.4% ● 男性の育休取得者比率 52.4% ● 男性の育休からの復職率 100.0% 〈2026年3月期予算〉 ● 従業員一人当たりの研修費用及び自己啓発費用 年間107,445円(2025年3月期予算比: +10,174円)	健康経営 3年連続で下記認定を取得 ● 健康優良企業「銀の認定」(健康保険組合連合会東京連合会) ● 健康経営優良法人2025(経済産業省) 次世代育成(通期累計) ● 中学生・高校生の企業訪問受け入れ数:92校/138時間/842名
地域社会との共栄	■ 評価指標・2025年3月期実績(通期累計) 〈MIXI〉 ● Kids VALLEY 48日間/153時間/1,056名 ● プログラミングサマーキャンプ 1日間/3時間/22名 ● 渋谷区部活動支援 28日間/56時間/49名 ● 渋谷区内私立中学校学習支援 15日間/31時間/599名	〈FC東京〉 地域貢献活動件数 1,187件 〈千葉ジェッツ〉 地域貢献活動件数 145件
健全なITサービスの運営	■ 評価指標 啓発活動・不正行為への対応 ● 学校/自治体への情報モラル講演活動 ● 捜査機関からの照会 ● スマホゲームにおけるアカウント停止対応 ● 未成年者契約取り消し ● TIPSTARにおけるギャンブル依存対応	■ 2025年3月期実績 —※
安全・安心なスポーツ等イベントの運営	■ 評価指標 安全・安心なイベント運営の対応 〈MIXI〉 自社運営チケット販売サイト「モンスターTICKET」を通じた来場者管理など 〈FC東京〉 「Jリーグ共通観戦マナー＆ルール」および「FC東京試合運営管理規程」に沿った試合運営	〈千葉ジェッツ〉 「B.LEAGUE共通観戦マナー＆ルール」および「千葉ジェッツオフィシャル観戦マナー＆ルール」に沿った試合運営 ■ 2025年3月期実績 —※
情報セキュリティとプライバシー	■ 評価指標・2025年3月期実績(通期累計) 情報セキュリティ研修 受講者数:1,425/1,425名(受講率:100%、2025年3月末時点)	
ガバナンス強化	■ 評価指標・2025年3月期実績(通期累計) コンプライアンス ● 重大なコンプライアンス違反件数 1件(チャリ・ロト社の役職員による不適切な資金のやり取りについて) ● コンプライアンス研修受講者数(2025年3月末時点) 1,425/1,425名(受講率:100%)	外部評価機関の評価 (2025年6月時点) ● MSCI ESG Rating「AA」 ● FTSE Russell ESG Score「3.2」 コーポレート・ガバナンス (2025年6月27日現在) ● 女性取締役比率 14.3% ● 社外取締役比率 42.9% ● 独立取締役比率 42.9%

※ 評価指標及び実績、具体的な取り組み等については、進捗を当社グループ内で把握し、今後の施策・方針を検討する目的で設定しているため、非開示情報を含んでおり、一部を本ページに掲載しています。

サステナビリティに関する取り組み SUSTAINABILITY INITIATIVES

環境 ENVIRONMENT

TCFD提言に基づく開示

当社は、TCFD提言※への賛同を2022年6月に表明しました。引き続き事業活動により排出する温室効果ガスの排出量を把握するとともに、適切な情報開示に努めていきます。

<https://mixi.co.jp/sustainability/issue/environment/tcfd/>

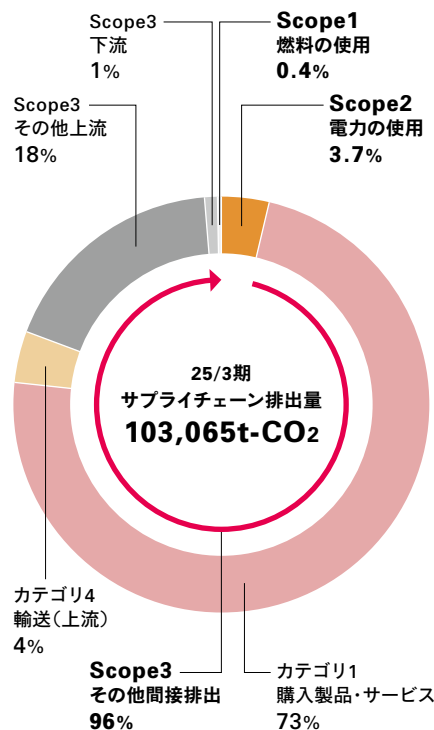


当社は、TCFD提言が推奨する「ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標」のフレームワークに沿って事業活動における気候関連のリスクと機会を評価し、適切な情報開示に努めています。今年度も、同提言に基づいてシナリオ分析を実施し、リスクと機会の抽出、必要な対応の検討を行いました。その結果、当社グループの事業において気候変動に伴う重大なリスクは確認されませんが、気候関連問題が事業に与える影響についてガバナンス、リスク管理の取り組みを通して把握、管理していくとともに、機会の獲得に取り組めます。

排出する温室効果ガスについては、Scope 1-2の排出量に加え、Scope 3の排出量算定を行っています。また当社グループは、気候変動が引き起こす影響が経営リスクになることを認識しています。今後も継続した排出量算定を行うとともに、各事業セグメントにおける省エネルギー化、再生可能エネルギー等の活用を通じた排出量削減に努めます。

TCFD提言に基づく開示情報の詳細や、温室効果ガス排出量の実績については、当社ウェブサイトをご参照ください。

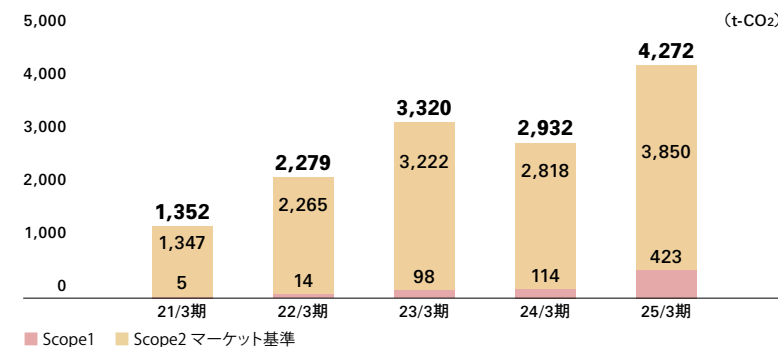
サプライチェーン排出量(t-CO₂)



排出量推移(t-CO₂)

排出量推移(t-CO ₂)	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期
Scope1	5	14	98	114	423
Scope2 マーケット基準	1,347	2,265	3,222	2,818	3,850
Scope1、2小計	1,352	2,279	3,320	2,932	4,272
Scope3	—	—	92,162	104,064	98,793
サプライチェーン排出量総計	—	—	95,482	106,996	103,065
(ご参考) Scope2ロケーション基準	1,342	2,174	2,974	3,264	4,194

Scope1、2別排出量(t-CO₂)



※TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures(気候関連財務情報開示タスクフォース)。G20からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)により2015年12月に設立された。

当社は、2022年から気候変動問題に関する国際的なNGO「CDP」の質問書に回答しているほか、有価証券報告書を含め、TCFD提言に準拠した開示を行っています。



TNFD提言に基づく開示

当社は、TNFD提言※1への賛同を2025年5月に表明し、以下の通りTNFDの提言に基づく情報を開示いたします。今後も事業活動により生物多様性に与える影響を把握するとともに、適切な情報開示に努めていきます。

<https://mixi.co.jp/sustainability/issue/environment/tnfd/>



ガバナンス

サステナビリティ推進業務を担当する本部を管掌する取締役 上級執行役員 CFOを自然関連課題への対応責任者(以下、サステナビリティ推進責任者)としています。サステナビリティ推進責任者の諮問機関であるサステナビリティ事務局において、自然関連課題への対応検討を年に1回以上の頻度で行っており、検討された結果は、サステナビリティ推進責任者を通して年1回以上、取締役会に報告しています。サステナビリティ事務局は自然に関連する依存、インパクト、リスクと機会の特定や評価、対応についての検討を行うにあたり、リスク管理委員会に適宜助言を求めるとともに、各事業本部およびグループ会社に必要に応じてヒアリングを行います。また自然に関連する依存、インパクト、リスクと機会、対応策の進捗状況について毎年見直しを行います。当社は、MIXI GROUP人権方針およびMIXI GROUPビジネスコンダクトガイドラインを定めており、自然関連課題への対応にあたり、地域社会をはじめとしたステークホルダーの人権への配慮を、サステナビリティ推進責任者およびサステナビリティ事務局にて行います。

戦略

デジタルエンターテインメント事業、スポーツ事業、ライフスタイル事業の直接操業を対象とし、LEAPアプローチを参考に自然関連課題の分析を行いました。分析にあたっては、ENCORE、IBAT、WRI Aqueduct※2などのツールを利用し、事業セグメントごとの依存とインパクト、生物多様性の重要エリアへの近接性、水リスクの有無を評価しました。対象とした事業セグメントにおいて、自然資本への

依存とインパクトが大きいと評価される事業はなく、水リスクが高い事業拠点はありませんでした。今後は、事業の変化に合わせて分析対象を拡大するとともに、シナリオ分析によるリスクと機会の特定に関しても検討します。事業セグメントごとの自然資本への依存とインパクトについては、以下ヒートマップをご参照ください。

リスクとインパクトの管理

サステナビリティ事務局は、LEAPアプローチを参考と

して、自然に関連する依存、インパクトの特定と評価を行っています。今後、重大な依存関係、インパクトが確認された事業については、自然に関連するリスクと機会を特定し、評価と対応策の設定を行います。また、自然に関連するインパクトとリスクについて、自社のその他のリスクと統合的に管理をするため、リスク管理委員会に適宜助言を求めます。自然に関連する依存、インパクト、リスクと機会のうち、重大なものについては、サステナビリティ推進責任者を通して取締役会に報告しています。

対象セグメント	供給サービス					調整・維持サービス				
	バイオマス供給	淡水供給	遺伝物質	動物由来のエネルギー	花粉媒介	生物防除	土壌と土砂の保持	洪水緩和	水流調整	降雨パターンの調整
デジタルエンタメ、ライフスタイル		VL				VL	VL	VL	VL	VL
スポーツ(ベッティング事業)		VL				VL	VL	VL	VL	VL
スポーツ(観戦事業)	L	L		M		VL	VL	M	M	M

対象セグメント	調整・維持サービス									
	地域の気候調整	世界的な気候調整	生育地と生育環境の維持	固形廃棄物浄化	土壌調節	暴風雨の緩和	水質浄化	大気浄化	騒音減衰	その他(騒音以外)
デジタルエンタメ、ライフスタイル	L	VL				VL				
スポーツ(ベッティング事業)	L	VL		VL		VL			VL	
スポーツ(観戦事業)	L	M	VL	M	VL	M	VL	L	VL	VL

対象セグメント	陸		淡水		海洋	資源	大気		汚染	
	土地利用の面積	水使用料	淡水利用の面積	海底利用の面積	その他の生物資源の採取	GHG 排出	非 GHG 排出	固形廃棄物排出	有毒汚染物質排出	妨害(騒音、光)
デジタルエンタメ、ライフスタイル	M	L				L	VL	VL	L	L
スポーツ(ベッティング事業)	M	L				VL	VL	L	VL	VL
スポーツ(観戦事業)	M	L	L	L	VL	L	VL	L	L	M

※1 TNFD(The Taskforce on Nature-related Financial Disclosures/自然関連財務情報開示タスクフォース):
自然資本等に関する企業のリスクや機会を評価・開示するための国際的なイニシアチブ

※2 ENCORE(Exploring Natural Capital Opportunities, Risks and Exposure):事業の自然への依存や影響の評価ツール
IBAT(Integrated Biodiversity Assessment Tool):特定の地域における生物多様性リスクの分析ツール
WRI Aqueduct:世界資源研究所(WRI)が開発した、世界中の水リスク(汚染、洪水・干ばつリスクなど)の分析ツール

イノベーションの促進

技術革新にとどまらず、事業を通じて「文化」を刷新するようなイノベティブな開発を推進しています。

<https://mixi.co.jp/sustainability/materiality/innovation/>

当社は2019年よりスポーツ事業に参入し、公営競技のレース映像配信における自動編集化、位置情報測位と画像解析技術を用いた自動追尾カメラシステムの開発など、スポーツにおけるAIを活用した技術革新を推進してきました。2024年12月からは株式会社Playboxと協業し、スポーツ映像のAI解析に加え、トラッキングやイベント検出などのデータを活用した分析基盤の構築に向けた研究開発に取り組んでいます。

サッカーの試合における「状態認識」を高精度に自動推定

サッカーの試合映像から、選手や審判など各人物の役割や位置情報等を自動で把握する状態認識(Game State Reconstruction/GSR)技術は、戦術分析やプレー評価にとって非常に重要です。この技術を実現するには、フィールドや人物の検出、選手の識別、トラッキング、位置関係の推定など、複数のAI技術を組み合わせる必要があります。実用化に向けてそれぞれの技術改善が求められています。

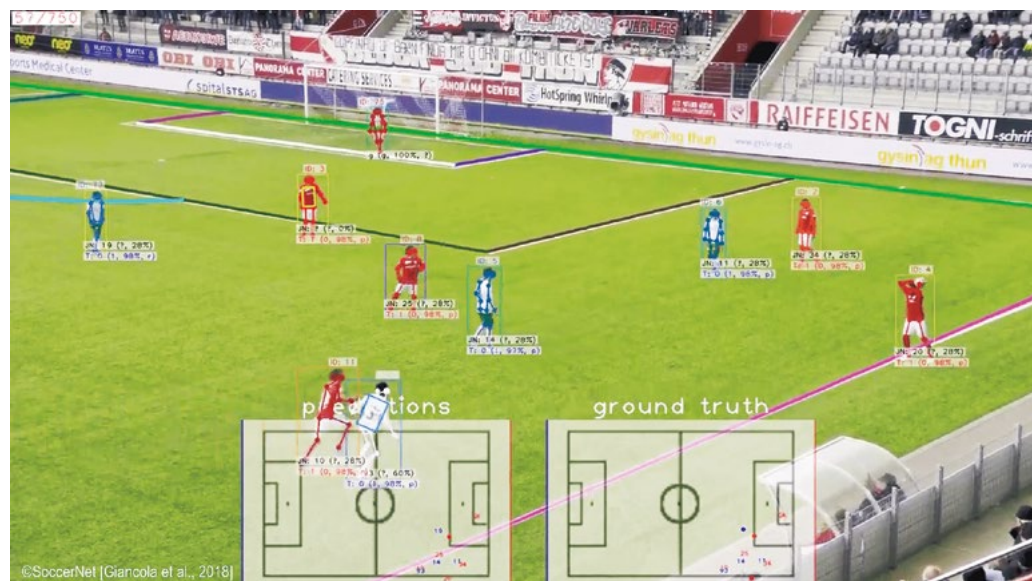
Playbox社との研究開発では、より高精度なディープラーニングモデルや幾何学的推論(カメラキャリブレーション)、サッカーのルールや選手の特徴に関する知識(例:ゴールキーパーは主にゴールエリア付近に位置するなど)を活用したヒューリスティック最適化を統合することで、既存手法を大きく上回る精度の向上に成功しました。

世界最高峰の国際会議「CVPR 2025」の競技会で4位獲得

研究成果をもとに、本年度開催されたAIとコンピュータビジョン分野で世界最高峰の国際会議「CVPR 2025」のコンペティション「SoccerNet Challenge (Game State Reconstruction)」に当社とPlaybox社の共同チームで出場し、世界4位の評価を獲得しました。

本取り組みを通じて得られた知見と技術は、スポー

ツの戦術分析やトレーニング、そしてファン体験の向上にも応用できると考えています。より高度な分析技術の実現に向けて研究開発を進めていくとともに、当社ならではのAIを活用した技術革新で、コミュニケーションに新たな付加価値を創出することを目指します。



情報セキュリティとプライバシー

情報管理を適切に実施することでサイバー攻撃やデータ流出対策を行います。

またBCP整備等、万全の対策に努めます。

<https://mixi.co.jp/sustainability/materiality/security/>

安心・安全なAI利用環境の整備

当社では、社内における生成AIの積極的な活用を目的に、攻めと守りの両面を意識した取り組みを進めています。生成AIの導入初期より、法規制、知的財産、情報セキュリティの観点から生成AIに関するガイドラインを策定し、継続的に整備・改訂することで、従業員が安心して安全にAIを活用できる環境構築を推進しています。また、事業部と法務部門・社内IT部門・セキュリティ部門などが連携し、様々なリスクに配慮しながら生成AIを活用できる横断的な組織体制を

構築しています。

従業員向けには、適切な生成AIの活用を促進するため、既存の情報セキュリティ研修のほか、生成AI活用のための研修を用意しています。この研修にはAIにフォーカスした利用上の注意点および情報セキュリティとプライバシーに関するルールも組み込まれており、最新のセキュリティ脅威やリスク、および生成AIの利活用方法を周知しています。

さらに、生成AIを利用した成果物に関しても、アプリ

ケーションの脆弱性診断やサービスインフラのセキュリティ監視をはじめ、既存の情報セキュリティ対策やリスク分析を引き続き実施しています。今後AIと従業員がさらに協働する未来を見据え、AI利用の有無を問わず一定水準の安全性を確保できるよう対策を維持しながら適宜強化していく方針です。

これからもお客さまが安心してサービスをご利用いただけるよう責任あるAIの利活用に努めます。

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

すべての従業員が心身ともに健康であり、常に最高のパフォーマンスを発揮できる環境整備のため、従業員、そして家族にも幸せをもたらす健康経営の施策を推進しています。

<https://mixi.co.jp/sustainability/materiality/diversity/>

健康経営の推進

当社では、代表取締役社長が健康経営の最高責任者を務め、取締役会や経営会議で健康課題の分析や今後の戦略について定期的に検討を行っています。また、従業員が主体的に健康の維持・増進に取り組めるよう、積極的な投資を行っています。

具体的な施策としては、ヘルスリテラシー向上を目

的とした各種イベントや研修の開催に加え、従業員が自身に必要な検査を受けやすくするため、オプション検査の費用補助制度も導入しました。

今後も、戦略マップに基づきテーマごとに健康施策を展開し、従業員一人ひとりのWell-being（ウェルビーイング）の実現を目指します。



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

3年連続で「健康経営優良法人2025（経済産業省）」に認定

健全なITサービスの運営

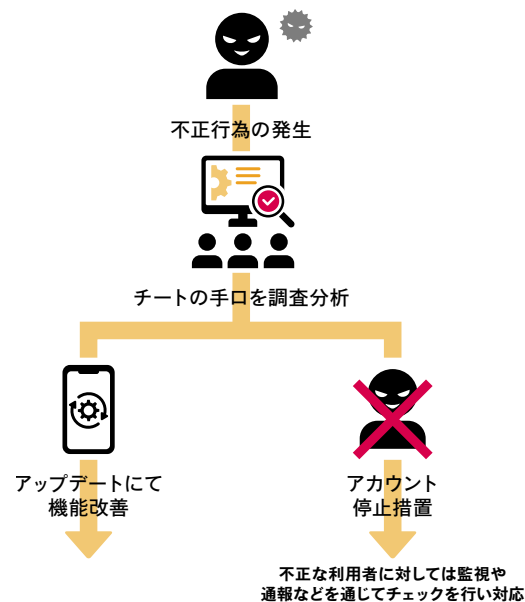
青少年の保護・配慮、サイバー犯罪、マネーロンダリングの抑止など、
当社サービスをご利用いただくすべての皆さまに対し、責任あるサービス運営を行います。

<https://mixi.co.jp/sustainability/materiality/itservice/>

不正行為のモニタリング

MIXIが提供する「モンスターストライク」をはじめとした各スマートフォンアプリでは、不正ツールを利用したゲームデータの改ざんなどにより、アイテムやキャラクターを入手し、ゲームを進めやすくするなどの不正行為に対して、専属エンジニアを数名配置し、アカウント停止など厳しい対応を行っています。

また、アップデートによる機能改善など、皆さまにフェアにお楽しみいただくための対策を講じています。



※ チート(cheat)：ゲームのデータやプログラムを改ざんして、正規の利用では本来できないこと(ゲーム内通貨やレアアイテムを不正に増やしたり、キャラクターのレベルを急激に上げるなど)を不正にできるようにする行為(警視庁HPより)

パトロール体制

利用規約に違反した利用者やコミュニケーションが
発生していないかどうか、安全にご利用いただくため
に監視活動を行っています。投稿内容に含まれるキー
ワードによる検知、他の利用者へ不用意にコンタクトし
続けるなどの迷惑行為を防止するためのリスクチェッ
クを行っています。

20歳未満の高額課金問題への対策

子どもが、無断で保護者の決済手段を使ってゲーム内アイテムを購入するトラブルが発生しています。中には保護者が気付かないうちに高額な利用料となるケースも存在します。このような中で、当社は、20歳未満の月額の利用金額の上限を15歳以下は5,000円、16歳以上19歳以下を20,000円とし、若年層の過度な利用を防止しています。

また、業界団体と協力し、ゲームの安全な利用を啓蒙する「情報モラル講師」を育成するセミナーに協力し、OS付随の機能制限アプリなどで保護者による管理（ペアレンタルコントロール）機能の利用の重要性を訴求しています。

ゲーム依存症への対策

2019年5月、世界保健機関(WHO)は、ゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる「ゲーム障害」を国際疾病分類として正式に認定し、2022年1月に発効しまし

た。このような中で、当社グループは、一般社団法人日本オンラインゲーム協会(JOGA)に協力し、ゲームの適切な利用方法を啓発するサイトの執筆や、安全・安心なゲームの企画・開発・運営のためのガイドラインの作成に協力しています。

ギャンブル依存症への対策

ギャンブルへの依存は、本人および家族の日常生活や社会生活に支障が生じるばかりか、多重債務や犯罪など重大な社会問題に発展する場合があります。当社グループでは、「ギャンブル等依存症対策基本法」に則り、「チャリロト.com」ならびに「TIPSTAR」の公式サイトで注意喚起と相談窓口、セルフチェックツールを掲載しています。また、本人に加え、本人家族からのサービス利用停止申請を受け付けており、当社が定める書面確認等が完了すると、入出金・投票サービス等の利用を停止しています。さらに、サービス利用時の車券購入限度額を事前に設定することができ、遊び方に合わせた適度な範囲内でサービスを楽しむことができます。

その他当社独自の取り組みとして、外部有識者と定期的に情報交換等を行い、ギャンブル依存症に対する知見を深めています。今後も、外部専門機関と密に連携し、必要な対策をタイムリーに実施して、ユーザーが健全に楽しく車券を購入できる仕組みづくりに努めます。

外部評価

当社のサステナビリティ活動は、国内外の各種機関からの評価を獲得しており、様々なESG指数(インデックス)の構成銘柄に選定されています。

また当社は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が採用する、国内株式を対象とした6つのESG指数のうち、5つのESG指数の構成銘柄に選定されています。

<https://mixi.co.jp/sustainability/recognition/>

ESG評価機関からの評価



MSCI ESGレーティング

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI)が、世界の企業を対象にESGへの取り組みや情報開示の観点で格付けする「MSCI ESGレーティング」において、2024年に「AA」評価を獲得しました。

ESG指数(インデックス)組み入れ状況

2025 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数※

MSCIが、ESG評価に優れた日本企業を選別して構築される指数です。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数(WIN)

MSCI日本株女性活躍指数(WIN)※

MSCIが、性別多様性に積極的に取り組む日本企業を選定して構築される指数です。



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築されたFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスで、セクター・ニュートラルとなるよう設計されています。また低炭素経済への移行を促進するため、特に温室効果ガス排出量の多い企業については、TPI経営品質スコアにより改善の取り組みが評価される企業のみを組み入れています。



S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

東京証券取引所が算出・公表している東証株価指数(TOPIX)構成企業において、環境情報の開示状況、炭素効率性の水準に着目して、構成銘柄のウェイトを決定する指数です。



Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index

TOP CONSTITUENT 2025

Morningstar日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数(除くREIT)

Equileapが提供するデータと評価手法に基づき、ジェンダー・ダイバーシティに関する方針や取り組みが企業文化として浸透しており、ジェンダーにかかわらず従業員に平等な機会を約束している日本企業を対象とした指数です。構成銘柄は、スコアに基づき5つのグループに区分されています。当社は5段階の中で最高位の「グループ1」に格付けされました。

※MSCI ESGインデックスロゴの免責事項:https://info.msci.com/l/36252/2017-06-27/kj6v2j/36252/198943/MSCI_ESG_Index_logo_disclaimer_license_2017_COMPANY_NAME_final2.pdf

記載の内容は2025年8月末時点の情報です。

人的資本経営

当社がMISSIONに掲げる『心もつながる』場と機会の創造。』とは、当社が提供するコミュニケーションサービスそのものです。

その担い手となる「人材」は当社における価値創造および競争優位の源泉であるため、人的資本を最も重視すべき資本の一つと捉え、積極的な投資を行っています。

<https://mixi.co.jp/sustainability/materiality/diversity/human-capital/>



当社では人的資本経営のゴールを「MIXIらしいコミュニケーションサービスの継続的な創出・運営」と定義し、このゴールを実現するための人材戦略の柱として「PMWV(Purpose:Mission:MIXI Way:Values)の浸透」「組織能力の発揮」の2点を掲げています。

この柱に基づき各施策を有機的に連動させることで、人的資本の価値を最大化し、「MIXIらしいコミュニケーションサービスの継続的な創出・運営」の実現に取り組んでいます。

人的資本経営に関する重点施策(抜粋)

1.PMWVの浸透

目指す状態:当社に所属するすべての従業員が、同じ

目的と価値基準のもと、その達成に本気で取り組んでいる状態です。当社は2022年4月に理念体系を刷新し、このPMWVを制定しました。社員一人ひとりがPMWVに深く共感し、自ら行動している状態を目指しています。

主な取り組み:

- **デザインによる雰囲気醸成:**社内で利用する備品や設備にPMWVを想起させるデザインを組み込み、意識向上と一体感の醸成を図っています(例:全社朝会のデザインリニューアル、MIXIスライドテンプレート of 刷新など)
- **上位層からの発信:**社内報、全社総会、外部メディア

等を通じて、経営陣を中心にPMWVに関する積極的な発信を行っています。また、本部長や部室長の360度フィードバックにPMWV発信に関する項目を追加し、発信を促進しています

- **MIXI AWARDの実施:**年に一度、PMWVを選考基準とした社内表彰イベント「MIXI AWARD」を開催し、PMWVを体现する個人・チームを表彰しています

サーベイ結果:2025年3月期の社員調査ではPMWVの「認知」「理解」「共感」がそれぞれ80%を超える一方、「行動」フェーズは68%に留まりました。

PMWV浸透度調査結果

	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期(目標)
認知	69.8%	84.3%	86.2%	100%
理解	74.8%	85.7%	86.8%	95%以上
共感	70.8%	76.9%	82.0%	90%以上
行動	56.5%	67.1%	68.3%	85%以上

課題と今後のアクション:「行動」フェーズのスコア要因を、個々の業務との結びつきの弱さや「自分ごと化」の機会不足と捉え、今後は以下のアクションにより課題の解消に取り組めます。

- よりPMWVとの連動性が高い評価制度の導入
- 行動促進につながるワークショップの実施
- Values浸透動画の企画・作成
- 従業員へのPMWV浸透を見据えた
アウトターブランド戦略の実行

2. MCS (MIXI-like Communication Service) の共通言語化

目指す状態: SNSmixiやモンスターストライクなど、MIXIらしいコミュニケーションサービス(MIXI-like Communication Service、以下MCS)を継続的に創出・運営していくための取り組みです。「発明」に向かって「夢中」にチャレンジし続ける人材創出につなげ、MCSの再現可能性を高めることを目指しています。

主な取り組み:

- 人事本部内に専任チームを新設(2025年4月～)
 - 「MCSとは何か」を再定義し、
その本質や価値観を明文化
 - MCS人材育成のコンセプト・プログラム設計
 - プロダクトづくりをリードできる人材増強のための
育成プログラム設計
- 今後は行動計画に沿った形で、「プログラムの改善と実行」「KPI設計」などに段階的に取り組み、MIXIらしいコミュニケーションサービスの担い手の創出につなげていきます。

3. サクセッションプラン

目指す状態: MIXIらしいコミュニケーションサービスを継続的に創出・運営していくためには、日々の事業運営を支えるだけでなく、不確実な環境下でも変化に

適応し、長期的な価値創出をリードできる経営人材の存在が不可欠です。当社では、未来の経営を担う人材を計画的に育成・選抜することを通し、経営人材の持続的な輩出を目指しています。

主な取り組み:

- 上級執行役員・執行役員・本部長を対象とした育成会議を年2回開催(2025年3月末時点の経営者サクセッション候補は7名)
 - 経営者の中でも特に重要なポジションである、CEO候補の後継者プール形成のため、「後継者計画のロードマップ」「あるべき社長・CEO像と評価基準」の策定
 - 役職ごとの役割定義に基づく360度フィードバック
 - 個別課題に対する学習機会の提供
 - 新任マネジャーのフォローアップ
 - ハイレイヤーを中心とした英語教育
- 今後は後継者候補の選出、育成計画の策定・実施といった運用体制基盤の構築に注力していく予定です。

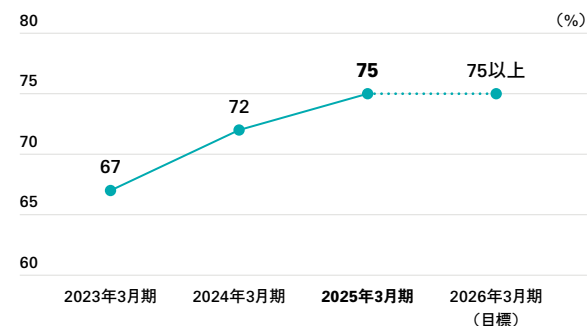
4. 従業員エンゲージメント

目指す状態: 社員一人ひとりが持つポテンシャルを最大限に引き出し、自律的な成長と組織の成果の両面に転換できる状態。個々の能力が発揮され、連携し、価値創造につながる「夢中になれる環境」の整備を目指します。

サーベイ結果: サーベイ内の設問のうち、「自発的な貢献意欲」「自社に対する愛着・誇り」「仕事を通じての達成感」の3つの設問の肯定的回答者の割合を総合した数値を「エンゲージメントスコア」としています。

過去3年間のエンゲージメントスコアは以下の通りで、2025年3月期の実績は目標としていた75%を達成しています。現時点において良好な水準以上であると捉え、2026年3月期は現状維持以上の75%以上を目標値としています。

エンゲージメントサーベイ結果



課題と今後のアクション: エンゲージメントスコアと相関性の高い項目のうち、肯定回答率が低い項目をみると、「経営陣の伝える/聴く姿勢」が当社の最大の伸びしろとなっています。

経営方針や意思決定の意図が現場まで十分に伝わりきっていないことや、階層間の情報流通・対話の機会が限定的であったことが課題要因であると捉えており、以下のようなアクションを実施しています。

- 管理職層を集めたディスカッションの機会
- 部室長向けの経営情報共有の強化
- 経営陣との目線合わせを行う定例会の運営見直しなど

今後も経営層からの発信の機会を引き続き強化していくとともに、組織階層を通じた情報伝達の強化に向けて、経営と現場の接点となる管理職と経営層の距離を近づけるための取り組みを進めていきます。